

日本選手権対象 JABA 大会について  
平成 20 年度における課題と対策

1. 平成 19 年度の状況 別紙のとおり

2. 課題

※昨年 7 月 13 日に開催の地域活性化委員会での協議を受けて、平成 19 年度の JABA 大会については、前年度の形態を大きく変えないで新社会人野球制度に移行することとしたが、新制度実施に際し以下の点について課題が生じている。事業委員会で協議し、都市対抗時の理事会までに 20 年度へ向けた対策案を提出する。

(1) 大会日程の重複

四国と静岡、長野と岡山がそれぞれ日程が重複している。重複を解消すべきである。

チームは、所属地区内の大会と北海道大会を除き、2 大会まで出場できることとしているが、所属地区内の大会が他の地区と重複している場合、出場の機会を逸してしまうことになる。

(2) 東京スポニチ大会の日程繰り下げ

出場するためには、春季キャンプを 2 月中に行う必要がある。特に関東以外のチームからは、3 月に春季合宿を行えるようなスケジュールまで時期の繰り下げを望んでいる。

(3) 出場チーム数の縮小と大会方式の研究

①当初予定としたチーム数を下回ったり、実績が伴わない地元地区のクラブチームが無条件で出場している大会もあり大会ごとのチーム数の再考が必要である。

②リーグ戦＋トーナメント方式

社会人野球は、長年トーナメント方式を基本にしてきたが、近年、リーグ戦＋トーナメント方式を取り入れる大会が好評を得ている。

無理にチーム数を増やすのではなく、限られたチーム数によりレベルの高い試合を増やし、参加チームの遠征効果を高める（試合数を確保する）ため、運営上の課題はあるが、リーグ戦＋トーナメント方式の採用促進を図るべきである。大差のコールドゲームは減少させるべきである。

③当該地区内のチームの参加枠について

当該地区内の特にクラブチームの出場については、クラブの実力を考慮することなく自動的に出場させるのではなく、ある一定レベル以上の実力のチームが参加するべきである。また、一方で地元地域のクラブの育成という観点から、一部出場への道を開いていくことも重要であり、春期に予選を実施するなどの方策を各地区の事情に即して検討すべきである。

(4) 北海道大会への出場チーム

原案では 12 のチーム数を確保すべく割り振られているが、補強選手を加えたとしても厳しい状況である。

(5) 春季都道府県大会の在り方

9 大会のスケジュールを優先する場合、慣例的に 3 月 20 日ごろ～4 月上旬にかけて各都道府県で行われてきた春季大会への影響を懸念する声上がる。都市対抗予選の組合せにも関係する地区もある。

春季大会に限らず、近郊地域で行う大会については、これまでの慣例やエリアにこだわらない形式での枠組みを検討する必要がある。特に 1 回戦から企業対クラブの大差のゲームを平日に行うということの是非も議論する必要がある。

3. 対策

別途事業委員会で対策を検討する。